

# 第1学年1組 英語科学習指導案

日 時 平成31年2月15日（金）第5校時  
場 所 4階 英語室

## 1 単元名 Lesson 9 A Letter from Australia (TOTAL ENGLISH BOOK 1)

### 2 単元について

#### (1) 単元観

本課で初めて過去形が導入される。規則動詞から導入し、不規則動詞へと展開していく。これまで扱った時制は、全て現在時制だったので、ここで初めて現在形ではない形を取り上げることになる。規則動詞は、主語や人称や数に関係なく基本的に動詞の語尾に ed を付けるだけであるため、比較的馴染みやすいが、発音はいくつかパターンがあるため、反復練習を何度も繰り返し行い慣れ親しむ必要がある。不規則動詞は、主語や人称や数の影響を受けないが、不規則に変化をする。また頻繁に活用する動詞ほど不規則動詞であることが多いため、日常的に英語に触れ慣れながら定着をしていく指導を心掛ける。

本課の話題は、オーストラリアの動物である。ヒロは、オーストラリアへ行ったベンから手紙を受け取り、ベンがそこでしたことや、訪れた場所について知る。最後にベンは、オーストラリアの珍しい動物についてスピーチする。本市は2・3年生を対象に、毎年オーストラリアのケアンズで海外派遣を実施している。本課をきっかけとしてオーストラリアへの興味関心や知識を深めていきたい。

#### (2) 生徒観

1年1組は男子16名、女子22名の計38名が在籍しており、英語に対する興味関心が高いクラスである。音読や会話活動等に積極的に取り組む生徒が多く、英語が得意な生徒が苦手な生徒をフォローするなど、教え合い、高め合う雰囲気がある。そのため、苦手な生徒も臆することなく全体の前で発表することができたり、それぞれの頑張りやよさを自分たちで称賛し合ったりすることができる。

CAN-DO リストをもとにした到達度調査の結果から、1学期（6月）において、「3～5文程度で自己紹介や家族・友達を紹介できる」と回答した生徒は47.1%であったが、2学期（9月）には79.4%であった。生徒自身の認識としても、英語が話せるようになってきていると感じていることが分かる。そこで今後は、英語に対する興味・関心の高さを保ちつつ、自分自身のことや、自分の思いや考えを英語で伝え合う力を身に付けさせたい。

#### (3) 指導観

3年間の学習で、「自分の考えや気持ちを英語で表現し、ある程度のやり取りができるようになる」ことを目指している。そのため、まず1年生では、4月から教科書の音読指導に力を入れてきた。例えば、ただ教科書を読むのではなく、発音やイントネーションをしっかりとまねさせることに加えて、音読に慣れてきた生徒は文字から目線を外させるよう指導したり、場面にふさわしい目線、場面や状況を考慮した読み方、声量、表情等を意識させたりしながら、自分たちで考え工夫させながら音読を行ってきた。2年生では、音読（インプット・インテイク）などの活動を、リテリングなどの発表活動（アウトプット）につなげていくことに重点を置いた指導を、3年生では、自分の思いや考えなどを英語で表現し、ある程度のやり取りができるようにしていきたい。

また、次期学習指導要領が目指す互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な活動を重視することや、具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを実際に活用する言語活動の充実も視野に入れている。

本時は、来年度を見据え、また1年間の学習のまとめとして、最後に行う予定である show&tell での発表活動につなげるためのレッスンである。うまく教科書の表現を再生することよりも、教科書の表現にこだわらず、生徒が「〇〇と表現したい！／言いたい！」という思いをどう工夫して伝えようとしているかに焦点を当てる。

### 3 単元の目標

- (1) 間違いを恐れず、積極的に言語活動に取り組む。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 一般動詞の過去形を用いて尋ねたり、適切に応じたりすることができる。(外国語表現の能力)
- (3) まとまりのある英文を聞いたり読んだりして、その概要や要点を理解できる。(外国語理解の能力)
- (4) 過去形(規則動詞・不規則動詞)を用いた文の構造を理解する。(言語や文化についての知識・理解)

### 4 研修課題との関連

#### (1) 平成30年度 研究課題

「学力・体力の向上と豊かな心を育成する小中一貫教育の推進」  
 ～まなびとこころとからだを育む八潮スタンダードの実践～

#### (2) 学校研修課題

「未来に向かって主体的に学ぶ生徒の育成」

生徒は日本の創り手となる。その生徒たちが生きる将来は、急速な情報化やグローバル化により予測困難である。その中で、一人一人が社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を發揮し、多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓くことができるように「生きる力」を育成することは重要であり、次期学習指導要領でも求められている。

また、八潮市では小中一貫教育の次のステージとして「八潮スタンダード」を活用した授業改善による学力の向上が喫緊の課題として示されている。さらに、平成29・30年度に実施された全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査及び本校独自の調査において、次の事項が明らかになった。

- (1) 「生徒に基礎的な内容が身に付いている」と感じている教師は4ポイント中、2.35ポイントであるが、「教師は生徒の実態に基づいた授業改善に努めている」と回答した教師は4ポイント中3.09ポイントであった。(H29 学校評価より)
- (2) 本校生徒は「将来の夢や目標を持つ」生徒が多くいるが、それを支える「学習を楽しみ」と考える生徒が少ない。(H30 埼玉県学力・学習状況調査結果のクロス集計より)
- (3) 本校生徒の正答率が全国平均、県平均を下回る問題が多く、基礎的・基本的な内容の定着に課題が見られる。(H29、30 全国学力・学習状況調査、H29、30 埼玉県学力・学習状況調査結果より)
- (4) 今年度4月時点の第3学年生徒の進路希望調査で約20%の生徒が進路について未定、約27%の生徒が「自分の学力」との観点から進学先を決めている状況である。(H30 3年生 第1回進路希望調査より)

特に本校生徒の特長として、夢や目標を持っている生徒が多い一方で、それを支える学力が身に付いていないという大きな課題がみられる。これらは、教師一人一人が不断の授業改善を強く意識して日々の教育活動に取り組む必要性を示すものであると考えられる。そのため、授業改善の視点として、基礎・基本の定着や学ぶ意欲の向上と進路指導・キャリア教育の充実の二つを両輪として授業改善をしていく必要がある。

そこで今年度、研修課題を「未来に向かって主体的に学ぶ生徒の育成」とし、目指す生徒像を、①主体的に学ぶ生徒、②自分のよさに気づき伸ばす生徒、③望ましい職業観・勤労観を持つ生徒、④将来に希望を持ち、努力する生徒とした。

これらを実現するために、生徒の意欲向上を目指した取組を重視する。「八潮スタンダード」(授業展開のモデル)を活用した授業改善を進めるなかで、生徒が学んだ内容を自覚するとともに、その学習を楽しみと思えるように教師は指導し、その実践の効果を検証することを視点とする。

### 5 単元の評価規準 【L】 聞くこと 【S】 話すこと 【R】 読むこと 【W】 書くこと

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
<b>【言語活動への取組】</b> ①間違いを恐れず、積極的に言語活動に取り組んでいる。【S】 ②相づちをうちながら、相手の話に関心を持って聞いている。【L】	<b>【適切な発話】</b> ①尋ねられたことに対して適切に回答することができる。【S】 <b>【適切な音読】</b> ②適切な声量で意味を理解した音読ができる。【R】	<b>【正確な聞き取り】</b> ①教科書本文の内容を正しく聞き取ることができる。【L】 <b>【正確な読み取り】</b> ②教科書本文の内容を正しく読み取ることができる。【R】	<b>【言語についての知識】</b> ①文構造や語法、文法などに関する知識を身に付けている。【W】

## 6 単元の指導・評価計画

	ねらい	単元の評価規準	評価方法
1	○一般動詞の過去形(規則動詞)を使った文の構造を理解する。	ア① イ① エ①	ワークシート 活動の観察
2	○一般動詞の過去形(規則動詞)を含んだ文に留意して、Lesson 9A 本文の内容を理解し、音読をする。	イ② ウ①②	活動の観察
3	○一般動詞の過去形(規則動詞)の疑問文と否定文の構造を理解する。	ア① イ① エ①	ワークシート
4	○Lesson 9B 本文の内容を理解し、発音、イントネーション、リズムに気を付け、正しく音読することができる。	イ② ウ①②	活動の観察
5	○一般動詞の過去形(不規則動詞)を使った文を理解し、正しく英文を書く。	エ①	ワークシート
6	○Lesson 9C 本文の内容を理解し、音読をする。	イ② ウ①②	活動の観察
7	○Lesson 9C 本文の内容を理解し、リテリングすることができる。	ア①②	活動の観察
8	○単元のまとめ	エ①	パフォーマンス・テスト ワークシート

## 7 本時の学習

### (1) 本時のねらい

- ・ 一般動詞の過去形(不規則動詞)を用いて、オーストラリアのユニークな動物について絵を活用しながら説明する。
- ・ 教科書の表現にこだわらず、「○○を表現したい/言いたい!!」という思いを工夫して伝えようとする。

### (2) 本時の展開

	学習活動《形態》 (八潮スタンダードの視点)	学習内容	・指導上の留意点 ◎「評価」に関すること
W-up 1分	1 あいさつ 《一斉》	・ Good afternoon, everyone. How are you? How's the weather? What day is it today? What's the date today?	・ 英語の授業の雰囲気を作る
導 入 7分	2 目標の提示 (つかむ・見通す) 《一斉》	・ ALTによるデモンストレーション ALTがニュージーランドについて説明している内容を聞き取る(2回) 【1回目】聞くことに集中する 【2回目】次の点に注目し、必要に応じてメモを取りながら聞く ①どんな一般動詞の過去形(不規則動詞)が使われているか ②絵を参考としつつ、どんな内容を説明しているか(内容の類推) (個人→近くの人と情報を共有する)	・ 目標を意識し、主体的に学習に取り組めるようにする ・ 聞くことに集中させる

		・本時の目標をつかむ、見通す	・本時の目標を見通させる
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p><b>オーストラリアの動物を見に行きたくなるような説明をしよう。</b></p> <p>【ポイント】①絵を活用する ②動詞の過去形を使う</p> </div>			
展 開  37 分	<b>3 リテリング練習</b> (考える)《ペア》 ↓ (深める)	・①となり→②後ろ→③斜めの人と、練習をする ・まだやっていない人とも練習する ・互いにアドバイスをし合ったり、よいところをまねし合ったりしながら、表現の工夫を重ねる	・活動の様子を見届け、生徒の取組状況によっては、ALTもしくはJETの見本を紹介する。 ・活動の様子を見て、上手な生徒のリテリングをモデルとして紹介する。その際、どこがよかったかを、なるべく生徒に気付かせる。
	<p>◎評価 絵を活用しながら、適切な表現、ふさわしい態度、発音やイントネーションで表現することができる。【外国語表現の能力（適切な発話）】</p> <p>【評価方法】活動の観察による</p> <p>【生徒の活動のレベル】</p> <p><b>A</b>：ストーリーテラー・紙芝居風 絵を活用しながら、適切な表現、ふさわしい態度で説明できる Hi. Please look at this picture. <u>This is Hiro.</u> <u>He</u> went to Australia last month. <u>He</u> saw ... .</p> <p><b>B</b>：オーストラリアに行ったつもりで なりきり風 絵を活用しながら、適切な英語、ふさわしい態度で説明できる Hi, <u>I am</u> Hiro. Please look at this picture. <u>I</u> went to Australia last month. <u>I</u> saw ... .</p> <p><b>C</b>：教科書音読レベル 教科書の英文を見ながら説明する ※ 英文を見ないで説明できるところを増やせるように支援する</p>		
	<b>4 先生に聞いてもらう</b>	・ある程度いえるようになったら先生に聞いてもらう	・自由度の高いリテリングになるように指導する ・単なる音読にならないように、絵を示すなどしながら伝えるように指導する
<b>5 発表①</b> (深める)《ペア》 ・ペアで発表 (スネークフォーメーション)	・相手が、思わずオーストラリアに行きたくなるような説明をする ・聞き役は必要に応じて相づちを入れながら聞く	・ただ聞くのではなく、相づちをうつなど、リアクションをするように指導する	
<b>6 発表②</b> 《一斉》	・代表者が全体の前で発表する	・うまくできた部分や挑戦したことを全体の前で賞賛する。	

ま と め 5 分	7 振り返り (まとめる) 《個人→ペア》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業内容を振り返る 何ができるようになったか 何が分かったかを言葉にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が学んだ事を友達に伝える ことで個人の理解の整理 の一助とする</li> <li>・よかった点を褒め、自信と意 欲をもたせる</li> </ul>
	8 あいさつ 《一斉》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の活動内容について見通す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業への意欲をもたせ る</li> </ul>